

安全な国産グリーン社会

コラム SDGs Safety Domestic Green Society

第8回

国際化と国産化の推進  
—アドボカシーとしての取り組み

一般社団法人 洗楓座 代表理事 佐藤建吉

▼日本と日本人の特質

私たちは、次のように「間」との関係で生きている。時間・空間・人間・人間である。これは、日本語としての言語的あるいは文化的な感覚に由来するので日本人に特有なことである。対照として英語を考えると、時間/タイム、空間/スペース、人間/ワールド、人間/ヒューマンとなるが、英語の方には「間」との関わりはない。

□時間：時の経過を指すものであり、ある時点から別の時点までの間を表現する。「3時間」は「3時間の間」という意味。間を時間の区切りや経過として表現される。

▼国際性と文化の間

国際的な環境では、さまざまな文化や価値観が



□空間：ある場所から別の場所までの間や広がりや関係性を指し、物理的空間を表現する。自分の生活圏と他者のその広がりがや境や間隔など。国内/国外も空間の対象である。

□人間：日本人に特有な言葉で、ある社会やある人々の間でのしきたりや関係などについての言葉。この「間」は、さまざまな側面で異なるアプローチが存在する。国際的な環境で活動する場合同、国内的な慣習や価値観と異なる「間」を理解し、適応することが求められる。

国際的なビジネスや交渉においても、「間」は重要な要素である。異なる国や地域のビジネス文化、商慣行、交渉スタイルを理解し、調整する際に「間」が必要となる。相手との調和を保ちつつ、国際的なビジネス取引を成功させるためには、「間」の考慮が必要である。この間には「余白」としてとらえることができるが、その議論はここでは省略する。

▼アドボカシー

アドボカシー (Advoca

この間には「余白」としてとらえることができるが、その議論はここでは省略する。

▼多様なエネルギー

エネルギーは、簡単に言えば、「仕事をする能力」である。中国語では「能源」という。洗楓座は5種の自然エネルギーを法人名にしたものであるが、これを中国語で表すと以下のようになる。水力エネルギー/水能(水能源)、太陽エネルギー/太陽能(太陽能源)、風力エネルギー/風能(風能源)、バイオマスエネルギー/生物質能、地熱エネルギー/地熱能。

▼エネルギーの国産化の課題

これまでは、おもに国際化(Internationalization)を目指してやってきた。大学名にも「国際」を冠するということが同調した。国際化は、なるほど現代の世界において重要であり、目標であり、多くのエフェクトを与えてきた。

□文化的交流と多様性：結果として、国際化は異なる文化や言語、習慣との交流を促進し、文化的な多様性を豊かにしてきた。異文化交流や共生を高めてきた。

□政治と安全保障：国際政治と安全保障の問題を浮き彫りにして、具体的にはサプライチェーンの基盤整備が顕在化している。このように、国際化は利点の反面欠点もあり、課題を提供している。貧富の格差、文化的な摩擦、環境問題、国際紛争などがあり、国際社会がこれらの課題に対処し解決策を模索することが、いわゆる持続可能な地球をつくる。そうすると、もう一つ選択として、国産化(Domestication)がある。ある国や地域で製品やサービスの生産を増やしたり、国内の需要を満たすための取り組みである。国産化にもさまざまな相がある。

▼課題の解決

課題を英語では、チャレンジ(challenge)と訳されることが多い。課題は「困難な問題」という意味もあるが、同時に「克服すべきポジティブな挑戦」としての側面とらえることもできる。

□経済への影響：国産化は、国内産業の成長と雇用の創出を促進するといえる。国内生産は、国内の企業や労働市場を経済的に活性化し利益をつくることである。

□環境と持続可能性：留学生や研修生を通じて、学術や専門の知識や技術技能の共有と伝搬が行われ、国際労働市場を形成した。

連載